

令和7年5月17日

西会津町広報広聴常任委員会
委員長 上野 恵美子 様

議会報告会 第1班 班長 青木 照夫

議会報告会（第1班）報告書

「町民と議会との懇談会」（第18回議会報告会）開催結果について、下記のとおり報告いたします。

記

1. 開催場所及び日時等

開催場所	開催日	開催時間	参加者
公民館（野沢）	5月17日（土）	18：00～ 19：30	男性…7名 女性…0名 計 …7名

□自治区長出席者状況

芝草自治区長	長澤 隆
1 町内自治区長	渡部 和三
7 町内自治区長	茂木 和雄
8 町内自治区長	橋谷田 健一
9 町内自治区長	高津 典通
9 の 2 自治区長	植木 淳

□添付書類…出席者名簿

2. 出席議員…青木照夫 三留正義 荒海正人

3. 実施内容…別紙のとおり

1. 会場：公民館

(1) 担当係

- ① 受付…荒海正人
- ② 進行 …荒海正人
- ③ あいさつ…青木照夫
- ④ 説明…三留正義
- ⑤ 記録…荒海正人

(2) 議会報告に関わる参加者からの質問・意見等

① 議員報酬・役職手当について

- ・山北町では委員長等に役職手当があるが、西会津町議会でも導入を検討するのか
- ・報酬の引き上げよりも、町民のために何ができるかを優先すべきではないか
- ・物価高が続くなか、むしろ報酬は下げるべきではないか

□回答： 荒海、三留

- ・一部議員の間では意見が出ているが、議会としての方向性は定まっておらず、現時点では未定。今後方向性が決まればお知らせしたい。

② 豪雪時の対応（流雪施設）について

- ・諏訪神社周辺の一部地域には流雪溝がなく、豪雪時に困っている。かつては消雪パイプがあったが、老朽化により現在は使用できない状況。

□回答：青木、三留

- ・消雪パイプの設置・更新は財政的に厳しい。流雪溝も、高齢化が進む地域では維持管理が難しくなっている。
- ・具体的な要望については、区長などから町や議会に対して陳情を上げていただくなどもしていただきたい。

③ 豪雪による家屋被害などへの補助について

豪雪で被害を受けた家屋などへ補助はあるのか。議会として考えられないか。

□ 回答：三留、青木

- ・罹災に関する対応は町の所管となる。
- ・区長を中心に、町と関係を築きながら働きかけていただきたい。

(3) 懇談会テーマ『町民と議会の対話のあり方』

特になし

(4) その他

① 地域のつながりと高齢者の関わりについて

・西会津の強みの一つは地域の団結力だと思う。ただし近年は高齢者が地域活動に顔を出さなくなっており、自治区内のコミュニケーションに課題を感じる。

□ 回答（青木・荒海・三留）：

・自治区長の立場で全体を包括することは難しい面もあるが、地域のつながりづくりは重要な課題である。

・議会としては、集落支援制度の枠組みを拡充し、野沢町内でも相談に乗れるような仕組みを提案していきたい。

・区長などからも、集落支援制度の拡充に向けた声をあげていただきたい。

② 青木議員の事故報道について

・議会としての対応はあるのか。

□ 回答（三留・青木）：

・議員個人に関わる事象であるため、議会としての対応やコメントは差し控えさせていただく。

③ 移住定住政策について

・自治区内にも移住者がいる。西会津町の評価は高いと聞くが、雪対策や仕事の確保が課題ではないか。

□ 回答（青木・荒海）：

・移住定住は町としても力を入れており、過去5年間で約100人が移住している。

・仕事の問題は重要な課題と認識しており、議会としても引き続き検討していきたい。

④ 地域行事と若者不足について

・自治区内に若者が少なく、祭りや夜警などの地域行事が継続できなくなる可能性があると思う。

□ 回答（青木）：

・地域行事の継続は課題であり、議会としても認識している。

・普段から若者同士がつながっているグループがあれば、そこから地域活動にも関わってもらえる可能性がある。

・既存の動きやつながりを広げていくことが有効だとも思う。

⑤ 情報発信の方法について

- ・特に若者に対して、YouTubeなどで町の情報発信が必要なのではないか。

□ 回答（青木）：

- ・現在も様々な情報発信の取り組みを行っており、引き続き工夫をしていけるよう議論していきたい。

令和 7 年 6 月 2 日

西会津町議会広報広聴常任委員会
委員長 上野 恵美子 様

議会報告会第 2 班 班長 猪俣 常三

議 会 報 告 会 (第2班) 報 告 書

「町民と議会との懇談会」(第18回議会報告会)開催結果について、下記のとおり報告いたします。

記

1. 開催場所及び日時等

開催場所	開催日	開催時間	参加者
道の駅 よりっせ	5月13日(火)	10:00~12:00	男性… 4 人 女性… 6 人 計 … 10人

☐ 上原さくら会 会長 小柳 博巳

☐添付書類…出席者名簿

2. 出席議員

猪俣 常三 ・秦 貞継・上野 恵美子・長谷川 正

3. 実施内容

別紙のとおり。

1. 道の駅 よっりせ

(1) 担当係

- ① 受 付 長谷川 正
- ② 進 行 秦 貞継
- ③ 開会あいさつ 猪俣 常三
- ④ 説 明 上野 恵美子
- ⑤ 記 録 長谷川 正

(2) 議会報告に係る参加者からの質問等

- ① 上原自治区に建設した住宅について、中を改築して貸し出す計画と聞くが、これまでも他地区などで実績があるのか。

<猪俣常三>

- ・この取り組みは、町としても初めての取り組みとなります。

- ② これまで何人が町に移住しているのか。何を目的に町に移住しているのか。

<秦貞継>

- ・何を目的に来ているのかは、詳細までは把握していないが、これまで120名ほどの移住者が来ており、30名ほどの方が転出されたと聞いている。移住の目的や年齢層などは確認していない。

<猪俣常三>

- ・西会津町の良さも認識されている。上原に出来る住宅を改造し住んでももらいたいと言うものには妻帯者が入ってくる予定と聞いている。相当の財源を投入し、住み良い環境を整備する。

- ③ 町内の住宅に空きがある。その要因はどこにあるのか。

<上野恵美子>

- ・第3定住促進住宅は、空きが出て募集をかけているところであるが、2戸の募集に対し応募者が多い状況である。町営住宅は古くなり、入居を希望している人は、新しい物件を希望する傾向があるようだ。

- ④ 現在の町営住宅を若い人向けに改造してはどうか。

<猪俣常三>

- ・若い人の立場に立って町側も環境整備・予算配分をしていると理解している。群岡地区にお試し住宅があり、若い人はその住宅を見定めていると考える。そこは若い人向けに改造してきている。

- ⑤ お試し住宅を含め、住宅建設のニーズが本当にあるのか検証してもらいたい。

<秦貞継>

- ・住宅建設については、これまで多くの予算が投じられてきた、議会としてしっかりと検証する必要がある。

- ⑥ 移住者でも自分で事業を起こし、活動しておられる方もいますが、そんな方が増える政策ができないものか。

<秦貞継>

- ・移住者の人数や年代、目的、転出した人はどんな人だったのかなど、政策の参考情報と

して町側から詳細を聞きたい。

(3) テーマ「この町で生きていくこと」

- ① 若い人が町内で働けるよう、新しい仕事や町内店舗を受け継げる環境を長い目で考えて欲しい。

<長谷川正>

・他自治体でも外部から人材を呼び込み、地域の事業継承や農業に取り組む環境を整えている事例がある。成功事例を参考にし、西会津の魅力を活用出来るよう検討したい。

- ② 若者に限らず、高齢者の移住定住、特に町出身者が戻れる移住政策を考えてほしい。

- ③ 蕎麦を使った町おこし、蕎麦産業に力を入れてはどうか。

<長谷川正>

・蕎麦による町おこしは、十分可能だと思う。ふるさと納税の返礼品に挙げるのも、一つの方法だと思う。

- ④ ミネラル野菜の町、西会津と言われているのでミネラル野菜をこれからも発展させることはできないか。

<長谷川正>

・ふるさと納税の返礼品でも人気があるが、生産者の高齢化が進み若い人の参入が求められている。儲かる農業を今以上に進める必要があると思う。

(4) その他の要望事項

- ① テーマが抽象的すぎる。生きていくには何が足りないのか等、わかりやすいテーマでお願いしたい。何を求めているのかわからない。

- ② 対象者が上原老人クラブと載っている。老人クラブ以外の人が出てはいけないと勘違いされないか心配である。

- ③ 防災無線が聞こえにくい、外にいてもチャイムが聞こえない時がある。

- ④ 今冬の大雪で、積まれた雪の壁が2メートルを超えたためそれ以上の雪処理が出来ないと言われた。また、町内の別の雪捨て場でも雪が満杯になったため、雪を処理しきれなくなり、家屋倒壊の不安があった。積雪を処理できるよう雪対策を強化してほしい。

- ⑤ 野沢町内、新しくできた区域は自由選択区となっているところがある。弊害もあることから今後、選択制は検討すべきでないか。

- ⑥ 議員の皆さんと話が出来てとても良かった。また、次回もお願いしたい。

令和7年5月21日

西会津町議会広報広聴常任委員会

委員長 上野 恵美子 様

議会報告会第3班 班長 小林雅弘

議会報告会（第3班）報告書

「町民と議会との懇談会」（第18回議会報告会）開催結果について、下記の通り報告いたします。

記

1. 開催場所及び日時等

- ①開催場所 よりっせ2階 研修室
- ②開催日 5月15日（木）
- ③開催時間 午後6時から午後8時30分まで
- ④参加者 9名 （男性9名）

□水利組合長

- ・豊洲水利組合長 武藤惣次
- ・尾野本水利組合長 物江義栄
- ・三河水利組合長 上野誠喜

□添付書類 ～ 出席者名簿

2. 出席議員

武藤道廣議員、 仲川久人議員、 小林雅弘議員

3. 実施内容

別紙の通り

1, 「よりっせ」会場

(1) 担当係

- ①受付 小林
- ②進行 仲川（小林）
- ③開会あいさつ 小林
- ④説明 武藤
- ⑤記録 小林

(2) 議会報告に係る参加者からの質問等

① 議会活性化について

（質問）議員のなり手が少ない。山北町に行って来たと思うが、議会はどのように考えているのか。また、議会の定数を減らせという声があるが、そうは思わない。今の定数でしばらくやってもらいたい。私たちの声が届かなくなる。山北町に研修に行って来た感想は。

（武藤）・アンケート調査は実施した。

- ・広報モニター制度を取り入れ、町民の声を聞いていきたい。
- ・おしゃべりカフェも課題はあるが気楽に話し合える制度をつくっていききたい。
- ・小委員会制度は議員が主体的に活動するため、議会の活性化に役立つ。
- ・山北町民との対話を議会が大事にしている。みなさんの意見をどう吸い上げるかだ。いかに議会がみなさんの役に立てるかを考えたい。
- ・定数については、人口がどこまで減るのかを見極めながら考えていく必要がある。その中で検討していく。山形では女性の研修会を開いて議員を育てている。

（仲川）・山北町では議会と町民の距離が近い。

- ・議長が少しでも良い方向に向かおうという姿勢があった。
- ・おしゃべりカフェでは議員が出向いて町民のお話を伺って来る。
- ・議員のなり手を課題としていたが、山北町では、これ以上減らせば町民の声を届けにくくなるとして、手当や政務調査費を支給している。給料を上げるからもっと活発に活動するということ。できることから改善していきたい。
- ・議員は視察しているが、どう生かしているのか、という声がある。政策提言、議会活動の中で学んだことを活かしていく。

（小林）・山北町議会での熱量が素晴らしかった。町民の声を活かして議会を変えていくんだという強い思いを感じた。研修し刺激を受けて議員の力量をつけることに力を入れていた。活かせるところから活かしていく。

②（質問）移住者が増えている。どんな理由で移住してくるのか。

（回答—武藤）どこが良いのか、個々人の考えではないか。仕事もリモートが可能。町のいろいろな政策が少しずつ結果をだしてきているのではないか。

(3) 「農業における現状と課題について」3つの水利組合との意見交換

（武藤）各水利組合の実態は。

① 豊洲水利組合（仲川）

柴崎、橋立の地権者で設立。57年経過。施設も57年経過。地権者名簿は36人登録。水田台帳面積は40ha。実作付けは28haくらい。役員6名で組合を運営している。

② 尾野本水利組合

昭和60年設立。施設は40年経過。水田面積は177ha、畑65ha。組合数は現在調査中。理事11名。物江氏が組合長。その他各集落に総代が2、3名。水利費として10aあたり、田で4300円、畑で430円徴収している。

③ 三河水利組合

組合員32名。耕作面積24ha。設立から50年。当時たばこが好調。ポンプ3基入れた。現状は2基でまわしている。設備の更新が課題。個人で負担するのがたいへん。縮小する方向。後継者が少ないのが一番の課題。

（仲川）課題は設備施設の更新か。

- ☐ 尾野本の場合は、ポンプで川から水をあげてタンクに溜めるが、そのコンクリート製のタンクに漏水がある。
- ☐ コンデンサーの交換が必要となっている。使えるか確認しなければならない。施設設備の老朽化（劣化）が問題。
- ☐ （三河）ポンプそのものも老朽化。貯水池がないから年中モーターを回しっぱなし。10aあたり9000円かかる。10aあたり（組合員から）8000円もらっているが赤字。町からの電気料の補助で助かっている。しかし、今後続くという保証はない。2年連続の電気料高騰対策。

（仲川）今回、豊洲のトランスが壊れて2400万円くらいかかる。来年度まで2年間で受益負担がかかる。お金を負担してポンプを修理するなら、やらない方がよいという意見もある。実際住んでいない人が半分になってきている。そういう人は消極的。

数千万円の修理だと受益負担が増える。尾野本で3億円かかっている。とても出せない。

- ☐ 町側と設備の老朽化の話し合いが必要。将来へのシミュレーションをしてやっていくしかない。

(武藤) 基金をつくって賄う必要がある。

(仲川) ポンプの破損で受益負担が大きいと、三河もやめる人がでてきますか。

- ☐ やめる人がでてくる。大水の時に水があがって機会がダメになりやめた人が大勢いる。

(仲川) 3つの水利組合の設備に長寿命化計画で、町は2000万円くらい予算化している。

- ☐ 受益負担を少しでも減らして欲しい。

(武藤) ゼロはない。国に計画を出して補助率をいかに上げるかだ。

(仲川) 過疎債を町が借りて、水利組合に回すというのはどうか。

(武藤) 町の事業に水利組合をいれないと難しい。

3つの組合が共同して町に要請することが必要。

- ☐ 昨年、3つの水利組合が合同して町に陳情した。

(仲川) 田で240haくらい、3つの組合で持っている。

- ☐ 下小島の水管橋の漏水修理の見積もりで、1800万円でている。ベルトを巻いて応急手当している。

(仲川) 上野尻の水管橋の塗装に350万円かかる。

- ☐ 土地改良区に専門人材がない。

(武藤) 町が改良区と協議していかなければならない。

(仲川) 水路関係が経年劣化している。

(武藤) 水路を調査して計画的にやっていく体制づくりが必要。

- ☐ 余談だが、水利権の問題で田んぼの時ぐらい何とかできないのか。議員さん、何とかならないのか。

(武藤) 法的なやつだから何ともならない。

- ☐ 農業は国の宝と言っているのに、水ひとつできないのか。おかしいことが世の中いっぱいある。

(武藤) 農業関係者と議会の話し合いを持って、町に要望していく必要がある。基幹産業の農業・農業施設を守るために議会としてもやっていく。

(仲川) 受益負担の軽減の問題。水利組合以外の農業施設老朽化の問題。一級河川の水利権の問題。議会としても基幹産業の農業を守るよう解決策を考えていきたい。

(4) 報告会における改善点・意見

ここであげられた農業の課題を議会としても正面からとらえ、関係者と議会との話し合いを持ち、さらに町と協議していく必要があると考える。

今回の懇談会は、共通の問題意識から、話の焦点が絞られ集中した論議となった。各課題、団体対象の意見交換会は、効果的と考える。このまま続けたい。